

中にあるのであります。神様の聖旨を奉じ、國民は敬神の觀念を有つて、天と俱に事を爲すといふ精神——儒教で申せば天道明德の意味合、佛教で申せば佛と與に在り、佛と俱に進むといふ所の精神が、日本の國民には根本よりあるのであります。「正直の頭に神やどる」といつて日本國民は皆神を戴いて奮闘して居る所の國民であります。それは決して迷信的ではありません、神の清き精神を戴き、神の偉大なる力我れに在つて奮闘するのである、絶対我に在り、宇宙の大精神は國民個々の頭に在りといふのが、大和民族の覺悟であります。それ故にそこに宇宙的なるものがあり、又世界的には天下を光宅するといふ大理想があるのであります。日本人の頭腦——大和魂を分解すれば、實に我が國家を思ふのみではない、往いては天業に参加して世界の人類を救済する所の大事業を爲さなければならぬ。今直ちに爲すことは出来ぬが、往いては日は東より出でて西を照すが如く、天下光宅の事業を達成するものであるといふ、宇宙的世界的の理想を我が國民は有つて居る譯であります。

「深厚」といふ事に色々あります。その色々ある所の道徳の總てを調和統一するのは「深厚」といふ事である。國家あるを知つて世界あることを忘れたり、現在あるを知つて理想あるを忘れたり、生活の必要を認めて宗教の信仰を忘れたりするやうな事では、徳を樹つる深厚とは言へない、徳を樹つること薄つべらであり、偏つて居ると謂はなければならぬ。「深厚」といふ事は、今の教育界にて解釋をするやうな事は眞の「深厚」の本意に反いて居ると私は考へます。片々たる所の偏よつた事を考へて居つて、何で「深厚」といふ事が言へるか、儒教だけでも説けんぢやないか、多くの教育家が考へて居るやうな事では、「天道明德」といふても、天道といふ事が分らぬぢやないか、分らぬと云つたら失敬のやうだけれども、事實分るまい。「天地の公道に基くべし」と宣はせられた天地の公道とは何ぞ。天地神明に誓はせ給ふといつても、そのやうな事は要らぬ事ぢや、唯だこれは言葉のあやだと思つて居りはしないか、敬神崇祖の訓令が出るといふのは、さういふ事が分らぬのみならず、さういふ事が無くなつ